

2010年 4月15日
第12回常任幹事会

社民党北マリアナ連邦(テナン)視察報告

社民党 沖縄基地問題対策プロジェクトチーム
座長 照屋 寛徳

1. 日程

2010年4月9日(金)～11日(日)

2. 団員構成

照屋 寛徳(沖縄基地問題対策プロジェクトチーム座長、衆議院議員)
高嶺 善伸(沖縄県議会議長)
野崎 哲(社民党政策審議会事務局次長)
森原 秀樹(服部良一衆議院議員政策秘書)

3. 成果

- ・ 普天間基地の「国外移設」の実現に向けた社民党としての活動の一環として、北マリアナ連邦議会ならびにテナン市による米海兵隊誘致を歓迎し希望する強い意思を確認することができた。(党視察団の訪問を受け、テナン市評議会は近日中に米海兵隊の移転・駐留を支持する決議の採択を行なうことを決定し、また、北マリアナ連邦上下院による同趣旨の共同決議も準備されることとなった)
- ・ テナン島の3分の2(約70平方キロ)を占める米軍租借地の現状を視察するとともに、テナン市の経済社会環境等についても情報収集を行なうことができた。テナンには主要産業もなく、10数年前に作ったカジノもうまくいっていない。病院が1件(医師1名)しかないなど、基礎的な経済、社会インフラが整備されていない。
- ・ 上記により、これまで党が一貫して主張してきたグアムおよび北マリアナ諸島への普天間飛行場移設案を補強することができた。
- ・ サイパン島の「おきなわの塔」やバンザイクリフ、スーサイドクリフ、また、テナン島の旧日本軍飛行場跡地(広島、長崎へ原爆を投下したB29が飛び立った滑走路や原爆貯蔵ピットなど)を視察し、加害・被害両面からの平和への想いを新たにした。

4. スケジュール

4月9日	20:40	成田空港発
4月10日	01:15	サイパン空港着
	10:30	おきなわの塔、バンザイクリフ、スーサイドクリフを訪問、慰霊
	12:15	テノリオ下院議長と会談
	15:00	テナン島へ移動
		島内市街地、米軍租借地内(旧日本軍飛行場跡地等)視察

	18:00	テノリオ下院議長と懇談
4月11日	10:30	デラクルステニアン市長、テノリオ下院議長、テニアン選出上下院議員各1名、テニアン市評議会メンバー、テニアン市職員、テニアン市住民代表ら20名との会合(キャンプ・ハンセン駐留経験のあるテニアン出身元米海兵隊員も参加)
	13:30	サイパン空港へ移動(チャーター機でテニアン島上空視察)
	15:35	サイパン発(18:15成田空港着)

5. 面会相手

北マリアナ諸島米国自治連邦区下院議長

Froilan Cruz Tenorio

Speaker, Seventeenth Northern Mariana Islands Commonwealth Legislature

北マリアナ諸島米国自治連邦区上院議員(テニアン市選出)

Jude U. Hofschneider

The Senate, Fifteenth Northern Mariana Islands Commonwealth Legislature

北マリアナ諸島米国自治連邦区上院議員(テニアン市選出)

Jude U. Hofschneider

The Senate, Fifteenth Northern Mariana Islands Commonwealth Legislature

北マリアナ諸島米国自治連邦区下院議員(テニアン市選出)

Frenton B. Conner

The House of Representatives, Seventeenth Northern Mariana Islands Commonwealth Legislature

テニアン市長

Ramon M. DelaCruz

Mayor, Commonwealth of the Northern Mariana Islands Municipality of Tinian and Aguiguan

テニアン市評議会議長

Patrick A. Manglona

Chairman, 13th Tinian Municipal Council

テニアン市評議会事務総長

Joseph Sn. Cruz, Jr.

Secretary, TINIAN Municipal Council

テニアン市事務局住宅部長(テニアン市役所職員)

Jose P. Kiyoshi

Resident Department Head, Department of Commerce, Commonwealth of the Northern Mariana Islands Commonwealth, Municipality of Tinian & Aguiguan
 ※キャンプ・ハンセン駐留経験のあるテニアン出身元米海兵隊員

弁護士

Ramon K. Quichocho, Esq.

※副議長も出席していたが氏名不明

6. 主な発言

テネリオ下院議長

- ・ 米海兵隊がテニアンに来ることは、疑いなく歓迎されるだろう。
- ・ しかし我々はこのことを米連邦政府に言う必要があり、直接日本政府に言うことはできない。北マリアナ連邦は外交や安全保障に関する権限をアメリカ連邦政府に委ねており、こうした内容について表明することは許されていない。このことは「盟約」にも明記されている。しかし、テニアンの人々が要望すること自体は問題ない。
- ・ 私たちが米軍に来てほしい第一の理由は経済的な要因だ。1998年にオープンしたカジノもあまりうまくいっていない。テニアンの経済状態は非常に悪く、米軍が来てくれることは、経済的な効果があると期待している。さらにそれだけではなく、アメリカへの忠誠心を示したいということもある。国防の義務を果たすことで貢献したいという意識もある。いずれにしてもアメリカ政府をどうやって説得するかが重要だと思う。
- ・ 北マリアナ連邦が米自治領となった1978年に米連邦政府と締結した盟約において、2028年までの50年間で米軍がテニアン島の3分の2を租借し、地代として1750万ドルが支払われている。2028年に50年間の延長がなされることになっているが、その際には地代は入ってこないことになっている。それでも、その延長をし、さらに50年間の延長を行なう用意がある。
- ・ 米海兵隊がテニアンに移駐し新たな基地を建設する場合には、日本政府にも財政的な支援をお願いしたい。
- ・ 北マリアナ連邦上下院議会共同での米海兵隊の移転・駐留を支持する決議を予定したい。

テラクルス市長(テニアン市)

- ・ 恒久的な基地が建設されることを希望している。30年間、租借した島の3分の2の土地を米軍が活用するのを待ってきたが、何もなされていない。土地は有効活用された方がいい。
- ・ 海兵隊が移駐するのであれば、4000人およびその家族を受け入れることができる。(参考:現在のテニアン市の人口は約3500人。北マリアナ連邦全体で約3万5000人、これ以外に出稼労働者や移民等が数万人単位で存在する)
- ・ 経済効果、雇用創出につながることを期待している。基地の建設は、農業・漁業従事者にとってもよいことだ。
- ・ 基地建設にあたってはインフラ整備などの費用が必要になる。現在は、あまり整備されていない道路しかない。その点については日本にもぜひ協力して欲しい。普天間基地のテニアン移転について日米間で協定を結ぶ際には、財政支援についてもきちんと盛り込んで欲しい。
- ・ 市評議会で、米海兵隊の移転・駐留を支持する決議を近日採択する予定。

その他

- ・ 最終的にアメリカ連邦政府と日本政府が合意しなくてはならないが、合意されるなら法律的問題は何もないと思う。(Ramon K.Quichocho,Esq.氏) ※移駐について法律的問題はあるかとの質問に答えて
- ・ 私は元海兵隊で日本にいたこともある。海兵隊にも良い人も悪い人もおり、さまざまな問題もあることは承知している。しかし、海兵隊が来ることに問題はないと考えている。(Jose P. Kiyoshi) ※海兵隊に対する市民感情をたずねられて

以上

テナアン島北部の旧日本軍飛行場跡



社民党北マリアナ連邦（テナアン）視察報告【写真】

○バンザイクリフを視察



○テノリオ下院議長と会談



○サイパンからテニアンへ



○デラクルス市長はじめテニアン市民との意見交換会



○テナアン市民との意見交換会



○テナアン島旧日本軍基地その1



○テニアン島旧日本軍基地その2



○テニアン島旧日本軍基地上空から



(撮影:2010年4月10~11日)